

観光社会資本の事例

テーマ	地区のゲートウェイ エントランスゲート ~ 国立国際美術館 ~
【施設の状況写真】	
	
<p>国立国際美術館は、1977年、国内外の現代美術を中心とした作品を収集・保管・展示し、関連する調査研究及び事業を行うことを目的として開館し、平成16年大阪・中之島西部地区に完全地下型の美術館として新築、移転しました。</p>	
【施設の利用写真】	
	
<p>建物の外観は、竹の生命力と現代美術の発展・成長をイメージしています。</p>	<p>地下1Fには人と美術との交流を生み出すパブリックゾーンが設けられています。</p>
【観光資源としての利用状況】	
<p>国立国際美術館は、堂島川と土佐堀川に挟まれた大阪・中之島西部地区に位置しており、最寄りの各駅からも約10分程度の比較的近い位置にあります。</p> <p>美術館は大阪市立科学館に隣接し、周辺には大阪国際会議場があります。また隣接して大阪市立近代美術館(仮称)や舞台芸術総合センター(仮称)の計画があり、それらの施設とともに芸術文化地域を形成する施設であり、平成16年11月の開館以来多くの人々が訪れ、大阪の新たな芸術文化の拠点の核となる施設として利用されています。</p> <p>美術館のシンボルとなっているエントランスゲートは、夜間ライトアップもあり、その不思議な魅力から多くの注目を集め、大阪の新しいランドマークとなっています。</p>	

テーマ	地区のゲートウェイ エントランスゲート ～ 国立国際美術館 ～
<p>【社会資本の基礎データ】</p> <p>名称 国立国際美術館</p> <p>所在地 大阪府大阪市北区中之島4 - 2 - 55</p> <p>事業名 美術館整備事業</p> <p>事業主体 近畿地方整備局((運営)独立行政法人 国立美術館)</p> <p>事業期間 平成16年(完成)</p>	
<p>【社会資本の役割・効果】</p> <p>国立国際美術館は、1970年の大阪万国博覧会の万国博美術館を活用していましたが、経年による老朽化、狭隘化が進み、また時代の変遷に伴って利便性も悪くなっていました。これらの改善のため、大阪・中之島西部地区に完全地下型の美術館として新築、移転を行いました。</p> <p>周辺は隣接の大阪市立科学館をはじめ、北側に構想中の大阪市立近代美術館(仮称)、舞台芸術総合センター(仮称)などが一体となり、大阪市の新たな芸術文化の中心地を形成する地域です。</p> <p>隣接する大阪市立科学館との間には、人と美術との交流を生み出すパブリックゾーンとしてプラザを設け、人々が集い、語らうことの出来る場を提供しています。</p> <p>エントランスゲートと呼ばれる現代美術の発展をイメージしたステンレスパイプは、空に向かって伸び、人々を迎え入れてくれる美術館のシンボルであり、地区全体のゲートウェイを目指しています。</p>	
<p>【位置図】</p> 	
<p>【関連ホームページ】国立国際美術館 http://www.nmao.go.jp</p>	